

I 事業期間

令和3(2021)年4月1日～令和4(2021)年3月31日【第20期】

II 事業の実施状況

I 特定非営利活動に係る事業

(1)【事業名】～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュ

【概要】会員制・予約制の子どものための子どもの家(認可外保育施設)の運営
食事提供・送迎サービス、種々の体験活動・交流機会の提供

【実施場所】大野台7丁目18番3号

【実施日数】293日

(保育279日、イベント14日)

【利用人数】延べ1,071名(保育利用1,015名、イベント参加56名、前年度より257名増加)

【開設日時】月～金 9時～16時

依頼に応じて時間外対応

【対象者】生後4か月以上の利用会員家庭の
児童、1日利用定員5名(小学生以上可)

【利用人数】延べ1,071名(保育利用1,015名、イベント参加56名)

【方針】

- 年齢・校区を問わない夜間までの地域の子どもの居場所づくり
- 公的資金を伴わない、行政サービスの行き届かない領域の子ども・子育て支援と、コミュニティの関係づくり



日中から夜間までの間や学校の長期休業日に、保護者が就労、育児・介護、疾病等により、子どもを保育することが出来ない場合などに、子どもたちに、遊びと学習環境、安全で自立的な暮らしの場を提供する。

子どものためのコミュニティ・スペースとして、レクリエーションや学習、生活全般を通して、子ども同士、関わる人たちとのコミュニケーションの機会を提供する。

子ども・保護者からの種々の相談に応じる。さらに、地域活動に積極的に参加し、会員相互のみならず地域との交流を促し、地域福祉力の増進に寄与する。



「しんどいときは、SOS！ 助け合うのが当たり前」（定款第3条【目的】意識より抜粋）の精神で、地域社会で自分たちが担うべき役割や力を自覚し、住民経営によるコミュニティ・スペースづくりを堅持しながら、独自性と普遍性を表現していく。保護者の都合や希望を受け止めるだけでなく、子ども

もの意思によるニーズをとらえ、育児や地域生活、各自の仕事を応援するため、自らの五感を軸に「プラスワンの親切」を実行する。

- ① 風土や草木にふれて、心や感性を育み合う
- ② 商業主義にのらない文化や暮らしを体感する
- ③ 多様な人々や動植物が直にふれあう場をつくる
- ④ 社会に目を向け、地域に出掛け、出会い、知る



【実施内容】

■ 保育

- ・ 2021年度 年間指導計画（健康・環境・人間関係・表現・言葉のテーマとねらい）を設け、1年間を4期に分けて取組んだ。一期一会的な少人数集団の一時保育であるが、大枠の計画を定めることで、幅の広さと柔軟性をもたせながら個々の発達段階や意欲・関心に沿って活動できるようにしている。
- ・ 通常開設時間帯のみならず、時間外保育や放課後等デイサービスフェイスの修了生の利用が定着しており、子どもたちのつどう多様な場づくりを実践することができた。

2020年度 年間指導計画（健康・人間関係・環境・表現） 2020年6月	
年 間 目 録	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや欲求を言葉や身振りで伝え、安心して過ごす ・生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする ・体験を通して挨拶・習慣の場を学ぶ ・みんなと一緒に楽しく遊ぶ、マナーも身につける（準備、手洗、挨拶、片付け） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい字からの刺激を受けたり、小さい字への思いやる心を養む ・保育者や友だちと関わり、色々な遊びを楽しむ ・生活や遊びを通して言葉のやり取りや表現する楽しさを感じる ・食や作りを通して食べることに興味を持つ ・絵本や紙芝居に親しむ
<ul style="list-style-type: none"> ・朝やの成長に応じて簡単な身の回りのことをしようとする ・新しい環境に慣れていく ・春の自然を観察しながら散歩で体を動かして遊ぶ ・心身に健康で過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出掛け身体を動かしたり、春の自然を見つける ・散歩や公園の広場や店を見つけて生活に入れていく ・お花の見過ぎを持って身の回りのことをしようとする ・食や作りを通して食べることに興味を持つ、マナー（挨拶、準備、片付け等）も見える
<ul style="list-style-type: none"> ・夏の遊びを十分に楽しみ親近感を味わう ・保育者や友だちと関わりながら散歩や運動を広げていく ・年中庭に慣れつき、帰園時や暑い時間を健康で快適に過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ・水・砂・泥などに触れて遊ぶ ・レインコートや傘を持って散歩 ・お花だちとごっこ遊びや見立て遊びを楽しむ ・必要に応じて休息や水分をとり、心地よく過ごす
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと一緒に表現遊びを楽しむ ・秋の自然に触れ、関心を持つ ・十分に体を動かして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お散歩さんごっこ ・散歩に出掛け、秋の自然に触れる ・歌ったり、踊ったり、身体を動かして遊ぶ ・クリスマスに向けて制作 ・自然を題材とした遊びを楽しむ、手や足の力をつけていく
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なやりとりを体験し、人との関わりを学ぶ ・冬の自然環境に慣れつき、触れて遊ぶ ・自分の思いを言葉で伝えようとしていたり、やり取りをしながら遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お正月遊び ・雪・氷・雪に触れて冬の自然に触れる ・丸人が集まる集団遊びを楽しむ ・丸人が集まりながら自分の思いを言葉で伝える ・お正月の言葉やジェスチャーで表現し、その気持ちを大切に伝える



■ 会員限定企画

月1～2回の体験活動（全14回）、保護者交流会（全2回）

- ・ 会員以外の利用者にも広く呼びかけたかったが自粛ムードや感染状況の波の影響を受け、ほぼ会員内での活動にとどまった。
- ・ 講師を招いての午前中の工作と、午後からの身体をつかった遊びを組み合わせた活動が定着した。
- ・ 対象は概ね3歳以上、参加費は保護者負担（補助金・助成金等無し）で、ひとり3,000円程度で設定した。毎回6時間程度、平均5名が参加した。小学生以上の参加率は期待ほど得られなかったが、保育利用者の兄弟の参加が数名あった。

実施テーマ

ミニ鯉のぼりづくり&あまの街道散歩・いちご狩り（フェイスと合同*）・割りばし鉄砲作り&あまの街道山遊び・セタ準備のお友達招待企画・親子 de クッキング・花の文化園遠足*・子ども夕食クッキング・ニフレル&国立民族学博物館*・さやマルシェ&ハロウィン*・工作（木の車）と山遊び・クリスマス会*・紙工作&ちょっとバン・紙工作&大きな公園（荒山公園）遊び・副池オアシス公園で遊ぼう&新曲収録*

<保護者会>

「昼下がりの保護者交流会」「保育部門忘年会」



◆出張保育 依頼・実績なし

◆地域イベントへの参加（厚生労働省提供ガーゼマスク大活躍）

11月20日(土)「月のまつり」

NPO法人南大阪サポートネットとびらファーム事業観月祭
於)大阪狭山市立公民館



2022年1月9日(日)「新春こどもまつり」

ヨーヨーつりとお絵描きマスクコーナー
於)大阪狭山市立公民館

◆学習会企画・講師派遣 他

2021年12月11日(土) 楽塾「迎春マスク」

<http://rakujuku-nice.seesaa.net/article/484793540.html>



【収入】 3,169,110円（施設等受入評価益含む）

【支出】 2,773,625円（施設等評価費用含む）

(2)【事業名】児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス



- 【実施場所】大阪狭山市大野台7丁目18番3号
- 【実施日数】286日（休日：日曜、国民の祝日に関する法律に規定する休日、8/12～8/17、9/4、12/29～翌年1/4、3/31）
- 【開設時間】平日：12時30分から18時30分
土曜・長期休暇中：10時から18時
[保育所等訪問支援：火～金10時から12時]
- 【対象】2歳～18歳の児童 26名（2022年3月末現在）
- 【利用人数】放課後等デイサービス・児童発達支援：延べ2,694名
（契約26名うち未就学児6名/22家庭）
1日 平均9.4名
（定員10名・欠席加算含まず、新型コロナウイルス特例による請求42件含む）
保育所等訪問支援：44件（契約4名うち小学生2名、未就学児2名）

【目的】利用する児童の健全な育成を支えるため、身体及び精神・環境に応じて、日常生活における基本的動作や知識技能の習得、並びに集団生活に適応するための指導訓練等を提供し、生活能力の向上と地域社会との交流を図る。

- ・ 他者との信頼関係の形成
- ・ 友達と過ごす心地よさや楽しさを味わう
- ・ 葛藤を調整し、主張し、折り合いをつける
- ・ 自己選択/自己決定



保育所等訪問支援においては、訪問先の保育士・教員等と支援方針について相互理解の上、上記の目的をふまえ、本人・保護者と連携していく。

【内容】

<児童福祉法に基づく指定障害児通所支援事業>

■児童発達支援・放課後等デイサービス

子どもの発達過程や特性、適応行動の状況を了解した上で、一人ひとりの置かれている状況や願いに即した個別支援計画を作成し、発達支援等を行った。下記の2)基本活動以下の活動を複数組み合わせることで日常のスケジュールを構成し、1日30分の集団療育プログラム（通称PA、パーソナル・アクティビティ）を毎日実施した。

1) 個別支援計画の作成

全児童について年間で2通作成し、下記の具体的支援を進めた。

2) 基本活動



ア 自立支援と日常生活の充実のための活動

持ち物管理・手洗いうがい・身支度・身だしなみ・身体の清潔・外食・入浴/食事マナー・買物・掃除・健康管理（柔軟体操・ストレッチ・筋トレ・竹踏み・ウォーキング）・身体/体力測定・学習・あいさつ・言葉遣い・送迎ルール・交通マナー・作物と生物の世話・個人のリクエストによる遊具や教材の導入・PC操作・個別支援計画に基づく外出や宿泊・懇談



イ 集団生活の中で成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育む活動

仲間を意識したルールのある遊び・チャレンジカードによる目標管理と自己評価・目標やコメントの発表・イベントの企画実施・終わりの会での一日の振り返り・ミニコンサート・子ども会議・子どもアンケート・お楽しみ運動会・避難訓練・自己防衛トレーニング・身体と心の学び・応急手当ワークショップ



ウ 創作活動

季節行事（花見/ハロウィーン/クリスマス会/忘年会/餅つき/卒業パーティー等）・タイダイ染め・苔玉づくり・書道（短冊）・絵画・壁面装飾・自分たちの居場所作り・献立調理（収穫/仕入れ/買い物/おやつ作り・食事作り）



エ 余暇の提供

自由時間の室内遊び（アナログゲーム・コミュニケーションゲーム）、屋外遊び（ジョギング・サッカー・野球・ドッジビー・体操・）、遠足・外出（ロケット公園・天野街道散策・狭山池博物館・副池散策・東大池公園・いちご狩り・石川・海遊館・ニフレル・花の文化園・月のまつり・芋掘り・理科実験・初詣・新年会・映画鑑賞・金剛登山・外食・喫茶懇談）、個別の休息時間と場所の確保



3) 学校・保護者・地域との連携



ア 将来の自立や地域生活を見据えた活動

障害児通所部会研修の企画・他事業所訪問・保育所等訪問支援の活用・ケース会議への出席・防災訓練・保護者交流会・個人懇談・保護者Webアンケート



イ 地域交流の機会の提供

[初詣・保育部門との合同イベントや日常交流・地域探検・地域社会体験インターンシップの受入れ（大阪大谷大学）・学生ボランティアスタッフの受入れ・近隣の就労継続支援事業所が運営する店舗を訪問



4) 介護サービス 更衣、排泄等の身体介助

年齢に関わらず、可能な限り同性介助を行った。



Ⅲ 事業の成果と課題

(1) ～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュ

● 日常の保育現場と運営

・天気の良い日は必ず外に出て、自然に触れる体験をした。接点は少ないものの、地域の人たちとの出会いや交流も喜びだった。子どもたちやご家庭のために、飲み物や野菜をたくさん届けてくださる方々もあった。子ども同士の関わり合いの中では、折り合いのつかない場面も経験しながら、お互いが自己主張したり人の話を聴こうとすることを保育者は大事に見守り、時に介添えした。

・日によって出席人数や利用時間帯が異なるため、日ごとの運営をリードすることには戸惑いがあった。担当者は全員シフト制であり、利用状況に合わせて編成したが、こちらの環境に慣れていない子どもたちと、生活リズムやスケジュール、マナーを合わせていこうとしても一筋縄ではいかない。フェイス部門在籍の保育士等とのチーム編成をし、折に触れ事務局からのフォロー体制も得て運営した。利用者層が低年齢化（2,3歳前後）してきている中では、月齢や個人差もあって、技量と工夫をこらしても、場を調和させていくことの難しい場面・状況が多々あった。

しかしその分、子ども一人一人の魅力が感じ取られ、その時々心の機微、息遣いもじかに伝わってくる。一人一人の生活リズムや成長度合いを個別にかつ多様に見て取ることができ、それぞれの過ごし方や丁寧な個別対応も叶った。保護者の方々とは、もっと関わる機会やお話してできる時間が持てたら良かったという思いが残っている。

・2022年2月初め、新型コロナウイルスの直接的影響が出始めた。自宅療養や自主隔離する家庭への訪問、相談事の聞き取り、日々の状況把握につとめた。施設の休業や職員の感染・自宅待機はなかった。



ご家族の皆様へ 運営の継続について（ブログ） 2022年2月19日

<https://bit.ly/3BvSKDo>

● 会議・研修・認可外保育施設の経営

・保育士の配置不足が生じないよう、また、時間外や延長保育にも万全な対応をしていくため、公益社団法人全国保育サービス協会が主催するベビーシッター養成/現任研修（合計6日間×2名）を受講した。（その他の研修については後述）

・保護者層の有償ボランティアスタッフが経験値と力を上げ、保育活動や担当事務をつとめている。

・月1~2度とはいえ、企画イベントを復活させた。会員の友達、知り合い等から会員以外の参加を促したかったが、運営する側の感染症への不安や懸念がありながらの広報や諸連絡・調整等の事務対応には力及ばず、少人数の会員限定イベントに留まることとなった。同理由で、食事と憩いの場「おむすび村」の活動は復活ならず。今後、自治会等や諸団体と協働し、地域のつながりの場を再開していきたい。



・諸々のコスト削減の必要もあり、対面での定例の会議を、年度途中から大幅に縮小した。代わりに、ChatWork や日誌、毎日のミーティングの時間等を活用して保育担当者同士の連絡・連携・連動を、フットワークもネットワークも身軽に気軽に柔軟にとねらったものの、うまく機能し得なかった。心構えをする時間が持て

なかったり、意に反して、結果として一人で抱え込んでしまう時間が長くなってしまったり、タイミングをうまく持てず、現場をとりもつ力（とりしきるではなく）に活かしていけなかった。超コンパクトなチームであるので、自然かつ無意識的に、職務や組織としての働きよりも、個人の思いや力に偏重してしまったのではないかと。保育者一人一人の技能や感覚、献身に頼り、組織やチームとしてのバランスを欠き、日々多様で多忙な運営状況の中、自分たちの集合知を形成していこうという意識とパワーが減退していったかもしれない。この点は前年度から顕在化していた組織マネジメント上の機能的な課題であって、周辺の事情を考慮に入れたとしても、大いに反省するところであった。



● 次なるミッション挑戦のために

大人の都合や希望だけでなく、意思をもってワークレッシュを選択し子を託す保護者や、何らかのすくいを求めて訪ねてこられる親子との出会いと時間・場の共有が、法人の本来事業としての存在意義でありエネルギーの核となっている。理想的な場の実践をしながらも、少数だがひとりひとりの状況に対応していけば、自ずと保育や子育て支援だけではない、ボランティア（自由意志）のソーシャルワークへとつながっていく。そこに十分な手応えを実感しつつ、周辺の大規模認可園の保育が充足してくる中でも、育児のスポット（落とし穴）にはまったり大枠にはまらなかったりする潜在的なニーズ層へのアプローチは急務であると思う。まだまだ、こちらからの発信と受信の力を強めていきたい。間に公的機関や税金を入れず、親から直に子を託される対人の仕事に際し、また周辺諸



事においても、誠実に、丁寧に応えようとしてきたことには、誇りと矜持がある。しかしその一方で、定員いっぱいまでお引受けしたところで金額的な収益は求められず、多機能・高度の要求される諸業務に求められる質を担保していくには、自主事業としての限界をとうに超えているという意識もあった。

上記の現象に加え、法人全体のリーダーシップとマンパワーの集結の必要性および2022年度に認可園等に就園していく会員が多数であることや、利用会員層拡大が成らなかったことも要因となり、2021年秋、次年度からの認可外保育施設の開設時間短縮と料金改定を決めた。年明け早々から保護者・関係者に通知し、新年度からの本事業の実質的な縮小と、NPOの自主事業としての方向転換を図るため、熟慮の期間を設けるべき、という判断をした。コロナ時代が加速させた社会や世間の閉塞感や地域コミュニティの希薄さ、分断、孤立は、もはや平静・通常の様相になり果てているようにも感じられる。超小規模でも「施設」を自主運営してみて、やはりそのことを再確認し、痛感した。此处に蓄積された経験的財産を、どう活かしていったら良いか。役割が終わったのではない。NPOとしての次の段階へ、追い込まれながらも押し出されていくような感覚で、2022年度を迎えることになった。



保育事業の改編について（ブログ） 2022年4月1日

<https://bit.ly/3xMFN6J>

（2）児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス（Ⅲ 事業の成果と課題）

● 主要な療育の取組と成果

8期目は「協調と調和」～人との関わりや生活体験から自分の役割をつとめる～

■ P.A.（パーソナル・アクティビティ）の月間テーマ

- 前期 <新学年になれる、体、気持ちと言葉、ルールのある遊び>
- 夏休み<体験・実験、創作活動、郷土料理、新学期>
- 後期 <体をつかう、体を知る、運動、ルールを学ぶ、体を動かす、ルールとマナー、ふりかえり>

● 計画のふりかえり

「衣食住に密着した暮らし」を、仲間と共同で体験して学ぶことがフェイス不変のテーマ。——放課後または休日の関わり合いを経て、巣立つ子ら・育つ子ら。自ら願い、予測し、決定し、伝え、挑戦する子。経験を踏まえ、人を思いやり、助け、導く役割を担う子。過去から今、未来へと、責任感をもって自分の役割を果たし、成長していく——。

日常／非日常の生活体験や人との関係を経て、これらを実感・実現していけるよう、大人たちはその媒介役と下支えとなれるようつとめた。子どもの心の伸びや表現

を阻害するようなサービスを控えることはもちろん、よくある支援側の個人の経験や一般常識による「良かれ」とのアドバイスをして、個々人の思いや尊厳を傷つけることのないようにしたい。その願いを強く持っていながら、スケジュールや諸事をこなすことに紛れて自らの成長や学び合いの意識が薄れ、また安心・安全な場づくりについても、しっかり向き合えていないこともあった。

20年度末、「私の仕事って何ですか？」という学生スタッフからの素朴な疑問を受け早速『スタッフガイド』の編成に取り掛かったものが、ようやく翌7月に一旦完成した。「子どものセーフガーディング」や「送迎のルール」と合わせて月例会議等で見直しながら、加筆修正していきたい。

● 現場からの報告

思い返すと、特に上半期は、記憶を失っているくらい大変に感じた。コロナ対策も、行政からの情報や世間の様子は中途半端な状況で、たとえば、外食しても良いのか悪いのか…子どもたちの計画を進める際にも判断が揺れた。夏休み、限界が来て「遊びに出ましよう！」となった。スタッフそれぞれの郷里の特産品や風土を紹介するなど、夏のPAでの交流や学びは多岐にわたり、良いものになった。

保護者から随時 SOS や問合せをいただけるようになり、新規契約や内外からのご相談もあった。一人でも新しい存在があると、子どもたちの現場が活性化することが分かった。学校卒業のタイミングでの契約終了生が5名。学生指導員の就職による退職もあった。それぞれの出席最終日に、送り出す時間を持つことができた。別れも多かったが、学生ボランティアスタッフたちの登場が嬉しかった。

彼らと交差するように、幼児の新規契約や相談、出席が増えていったことにより、皆の過ごし方が変わってきた。時に人との場の分割が生じ、これまでの経験値や協調・調和の呼吸が活かされず、直接支援、小グループの運営共に困難を感じることもあった。逆に、子どもたちそれぞれの新たな力・心模様・具合や加減のうまさが発現することにもなった。子ども同士の相互関係においても、こちらからの学びの提供だけではなく、子ども自身がこの場の主となって先導していく言動が見られ、日々のつきあいや、自由で情緒的な関わり（年長者への憧れや模倣、仲間意識の醸成など）からの明確な人間性の伸びは、次の目標に高めていけるはずという感触を得ている。それには、まずチームワークのたて直しや次の人たちを育てていくことにも積極的にならなくてはならない。もっと広い視野をもち、思い込みを消し、イチから場の空気やそれぞれの技能や思いを共有し、重ね合わせていきたい。



保育所等訪問支援は2期目。年度当初の慎重かつ変動を見込んだ計画通りに進んだ。学校園・保護者との信頼関係、実践の手応えを深め、新規開拓を図った。それぞれの園・学校の方針や特徴を知り、丁寧かつスピード感をもって家庭での生活の充実と安寧につないでいけるよう心掛けた。利用者募集は積極的におこなえなかったが、取組には相当の意義・手応えを感じており、次年度以降発展させていきたい。

3事業を通じ、「本人主体」「子育ての仕方支援」「地域の暮らし」を主軸に、どのような状況においても親子の関係性や暮らしを常に応援できるよう、ひとりひとりの力量と観察眼を磨くため、実践あるのみだった。事業部門や支援/被支援の枠を超えた、スキルとノウハウの伝承と交流を図った。

以下に、これまでの療育テーマと学びの歩みを記しておく。



第1期 2014年度「自分を知る・お互いに知り合う」

日常の挨拶やマナー行動が定着していったことによって、自分や他人への関心や自覚の芽生え、コミュニケーションの広がりや深まりを生み出した。

第2期 2015年度「自分の身体を扱えるようになる」

【遊びが学び】のコンセプトに沿った成果を獲得しつつある。集団の遊びを楽しみ、自分の気持ちを自覚し、表現出来るようになってきた。他者への関わり合いの力と意欲も発現。

第3期 2016年度「衣食住に密着した暮らしの体験」

興味と役割を持って生活を楽しんで営めるように、仲間と、または一人で。暮らしがしごと・食べること・着ることにまつわる様々な所作を循環させ、生活力へと結んでいく。

第4期 2017年度「食とコミュニケーション」「自分を知る・人に伝える」

色々なものを食べ、時に作り、新しい味を知りながら、言葉や行動を引き出す術とゆとりを持てるよう共にチャレンジした。支援される自分・支援される立場から、支え合い助け合う自分たちへ。

第5期 2018年度「道具をつかう」

人と一緒に取り組むことや外出の機会を増やししながら、最大の道具である「言葉」でのコミュニケーションを重視。希望をもった生活設計、喜怒哀楽の表現がより豊かになった。友だちとの輪、放課後の自由な遊び時間と放課後の集団を、子どもたち自身が獲得していった。

第6期 2019年度「比べる」

決して優劣をつけるのではなく、自分と人との強みや違いを知ることで、視野を拡げ自意識を深めていく。感覚や好みの違い、喜び・悲しみ・心配・共感など様々な気持ちを感じ伝えて交わすことで、個々が主体となって意見・希望・不満を言える環境や関係性が築かれていった。

第7期 2020年度「役割」

コロナ禍や長引く休校。不便さや不安を共にし、長時間共に過ごしたおかげで、人を思いやる現場が培われていった。相談する・代弁する・人のことを認めて、相手を称える。自分たちのフェイスを「つくる・守る・育てる・大事に思う・大事にする。」責任感をもつという役割を果たしながら、自分たちの「らしさ」を形成していった。



第8期 2021年度「協調と調和」

● 運営体制・周辺環境、次年度以降に向けて

2020年初めから、不安定な社会情勢や集団生活の制約が続いている。子ども達の進化や事業の進展ばかりを目指さず、時に弱さや停滞を認めながら、あらゆる感情の表出や現象の包摂を受容しようとした。子どもたちの心身の健康維持と緊張の緩和を意識し、PAのみならず、そのほか日常において、出来るだけのびのびとした空気感をつくり、楽しい試みをしたり外に出向くようにし、人と人が穏やかに交流できるようつとめた。

新型コロナウイルス感染症については、保育部門同様、21年度中の職員の濃厚接触者・陽性の発現は見られず、カレンダー通りに開設した。2022年2月は周辺地域で流行が見られたため、フェイス始まって以来の低調ぶりとなった（他の月の平均と比して▲52件、出席率77%）。従前から覚悟は出来ていたものの、法人全体の経済の骨身に堪えた。しかし幸いにして子どもたちやご家族は療養期間を乗り切って健康を回復されており、3月には利用人数も最高潮に盛り返した。保護者アンケートで、「やっぱりフェイスは強かった」と評していただいた。今後も養生していきたい。

2021年度 保護者アンケート回答まとめ <https://bit.ly/3OCBwtX>



総じて、これからも、保育部門や地域と共生・融合していくプログラム＝「区別されない」保育の必要を感じている。周辺を見渡せば、コロナ禍が拍車をかけている、大事に保護対象として扱われながらも生活・言語・情操のちからの獲得を削がれている子どもたちが居る。彼らへの育ちの支援や親への救いを、どう担っていくべきか。協調と調和(2021年度のテーマ)などと、綺麗なありきたりのスローガンを掲げて、頑張ったつもりではいけないのではないかと。放課後等デイサービス（障害福祉サービス）が迎えている諸課題についても、発信力をつけ、総括していくべき。日常は精一杯今あることを大切に務め、親子からのメッセージを受け取るタイミングを逃さないようにしたい。危機感を忘れず、公的機関や他事業者の知恵を借りて再度力を合わせ直し、NPOとして一步踏み込んだ新たな段階へ歩いていけたらと思う。



IV 理事会その他会議の開催状況

● 理事会

- ・ 6月30日(火) <報告>事業報告書提出完了、保育部門の児童家庭状況
- ・ 8月3日(月) 職員の働き方等相談案件とその対応について
- ・ 11月11日(水) 就業規則の改訂(子どものセーフガーディングの採用、行動規範の策定)について

上記3件は、ChatWork 理事会グループまたは Messenger 通話にて実施

- ・ 12月6日(月) 次年度からの事業展開について

於) cafe&bar Charge (中央区内淡路町)

● 認定NPO法人申請の届出

- 3月31日(水) 大阪府府民文化部男女参画・府民協働課府民協働グループへ

● 第19回 通常総会

2021年6月28日(月)

10時30分~12時15分

於) ワークレッシュ1階居間

正会員総数 12名 出席 11名 (本人出席7名・委任状出席4名)

<議事>

- 1) 出席確認、議長選出
- 2) 第1号議案: 第19期事業報告(2020年度)
- 3) 第2号議案: 第19期収支決算報告(2020年度)
- 4) 第3号議案: 第20期事業計画(2021年度)
- 5) 第4号議案: 第20期収支予算(2021年度)
- 6) 第5号議案: 役員を選任
- 7) 第6号議案: 議事録署名人の選任に関する事項



● 会議、職員研修等

【全体会議・法人主催研修】

- ・ 10月11日~12月3日 在宅研修・虐待防止委員会主催
NHK 福祉情報サイト「ハートネット」=性暴力被害= の記事からレポート提出
「子どものセーフガーディング」について

- ・ 10月25日(月) 11時~12時30分 全体研修

於) ワークレッシュ1階和室

動画視聴「危険予知・事故回避トレーニング」、「当事者感覚や本人の気持ちにふれる」

- ・ 12月18日(土) 忘年会 於) 割烹 高野(富田林市錦織)



- ・12月21日(月)10時30分～12時15分 全体会議 (於)ワークレッシュ1階
上半期振り返り、次年度の事業について、新規入会・契約児童について
- ・3月30日(水)19時15分～ 全体研修・虐待防止委員会主催 (於)ワークレッシュ1階
Work+Crechers!スタッフガイド・行動規範 オリエンテーション

この他に受講した研修

子どものセーフガーディング研修(*国内の子ども支援団体対象)、大阪府障がい児等療育支援事業専門研修会(*全3回)、障害者虐待防止・権利擁護研修(動画視聴)、大阪府認可外保育施設職員研修会(動画視聴)、「関わる」ための底チカラを身につけよう(大阪狭山市立公民館地域活性化事業)他

*オンライン講座

【職員研修旅行】

2021年9月4日(土)・5日(日)

大阪府民の森 ほりご園地 紀泉わいわい村



【2021年度 会員数】

正会員 11名

賛助会員 63名(66口)

寄付者 20名(賛助会員と重複あり)



以上

■付 録■

<PV本編>ワークレッシュはどんなトコ ①土曜の昼編 11' 50"

<https://youtu.be/6SS6IJVrfKI>

スタッフのインタビューあり

<短編>ワークレッシュはどんなトコ 1' 10"

<https://youtu.be/fqIOE6kDtY>

▼ワークレッシュの歌

<https://www.youtube.com/channel/UCnlwWp-9cc-roiQXkRcWiiQ/videos>



これらの楽曲および動画は、公益財団法人 SOMPO 福祉財団の2020年度社会福祉事業「認定NPO法人取得資金助成」を受けて制作しました。